

基本目標2 「育み・学び・思いやり」の質の高いまち

分野別政策7 一人ひとりを大切にする思いやりのあるまちの推進

**施策 No. 20 多文化共生と国際交流の推進**

10年後のめざす姿 市民一人ひとりの国際感覚が養われるとともに、多様な文化や価値観を理解し合い、外国人との対等な関係を築きながら支えあって共に暮らす地域となっています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値 (H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「国際交流や多文化共生社会の推進」に関する市民満足度	7.6	%	目標値	7.8	8.4			9.0	10.0	↘
			実績値	5.5						
2 国際交流協会会員数	670	人	目標値	676	682			700	730	↘
			実績値	471						
3 国際交流活動参加者数	5,627	人	目標値	5,661	5,680			5,800	6,000	○
			実績値	7,530						

総合評価	住みよさ指標の状況
<b>C</b>	国際交流協会が開催している語学クラブのクラス数が減少し、その影響で参加者数が減少したが、その他の事業で参加者数増加に努めたため、全体で例年通りの参加者数を得ることができた。

**施策を構成する事業の状況**

河内長野市国際交流協会(KIFA)が実施する市民主体によるさまざまな交流事業に対して、国際交流事業補助金を同協会に助成した。また、多文化共生の観点から、各課で作成している資料を英語・中国語・韓国語に翻訳を行った。

これまでの取組み	平成23年より各課で作成している資料の翻訳に取り組み、ごみ・防災・子育て・健康・国保といった分野の資料の翻訳した。また、市国際交流協会とともに、国際交流事業及び多文化共生施策を推進してきた。
課題 (めざす姿との差)	平成22年度をピークに、国際交流協会会員の高齢化による会員数減少が続いており、多文化共生施策に重点を置いた事業にシフトしていくなど、今後の国際交流協会のあり方について検討していく必要がある。
今後の方向性	国際交流協会との連携を図りながら、多文化共生に係る施策に重点を置いた事業をより一層、展開していく。